

# 存在しない子どもたち

## — 『世界子供白書2006』からの報告 —

2000年9月に国連ミレニアム・サミットが開催され、「ミレニアム開発目標(\*)」という形で、国際社会は世界の子どもさまざまな問題を2015年までに改善することを約束しました。しかし、現状のままでは、約束のほとんどが達成できないと言われています。

その上、存在を認知されない多くの子どもたちが「ミレニアム開発目標」から取り残されてしまう可能性があります。『世界子供白書2006』は現状を訴えています。

(\*)7ページ参照。2000年9月に開催された国連ミレニアム・サミットで採択された国連ミレニアム宣言に示された課題と、90年代に採択された国際開発目標を共通の枠組みとしてまとめたもの。

### 存在が認知されない子どもたち

存在が認知されない子どもは、【表1】のように、さまざまなきびしい状況におかれています。その状況のひとつに、子どもが出生登録をされていないことがあります。出生登録がされないと、社会に存在している人間として認められないため、基礎的な保健や医療、初等教育など、子どもが健やかに成長していくために必須の社会サービスを受けることができなくなる可能性があります。

この他に、人身売買や虐待、搾取の犠牲になったり、紛争に巻きこまれたり、子どもの兵士として戦場にかり出されたり、社会から隔離されて児童労働を強制される子ども



性的暴力や搾取の被害者を保護するシェルター。  
13歳のサンドラは父親の暴力から逃れてきた  
(コロンビア)  
©UNICEF/HQ01-0423/Donna Decesare

もなども、その存在が陰にかくれてしまうために存在が認知されず、社会から取り残されています。【表2参照】

このような子どもたちは「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」にうたわれている基本的な人権を保障されることがむずかしくなります。

存在を認知されない子どもたちは世界中のあらゆるところに存在しています。

【表1】

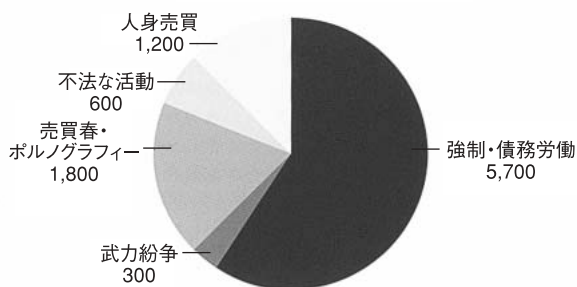
#### 存在を認知されない子どもは…

- ・ 開発の遅れた村に暮らしている
- ・ 性別や民族、出生、障害を理由に差別を受けている
- ・ 武力紛争に巻きこまれている
- ・ 子どもの兵士として戦いにかり出され、子どもとして扱われていない
- ・ HIV/エイズの影響を受けている
- ・ 出生登録がされていないため、公的に存在が認められていない
- ・ 人身売買や虐待、搾取の犠牲になっている
- ・ 危険な労働をさせられている

【表2】

### 無条件に最悪な形態の児童労働\*・搾取に 従事している子ども

(単位:1,000人、2000年)



\* 無条件に最悪な形態の児童労働: ILO182 号条約 3 条に掲げられた形態の労働に対応したもの。

出典: International Labour Organization, Every Child Counts: New global estimates on child labour, ILO, International Programme on the Elimination of Child Labour, Statistical Information and Monitoring Programme on Child Labour, April 2002.

『世界子供白書2006』より

## 原因と対策

子どもが存在を認知されない大きな原因は、「貧困」、「政府の統治が弱いこと」、「武力紛争」、「HIV／エイズ」などです。

こうした子どもの問題に光をあてるためには、次のような取り組みが必要です。

- 子どもたちの状態を把握し、問題の原因を理解するとともに、子どもたちのための計画をつくる。
- 子どもたちが社会から取り残される原因の改善を急ぐ。



HIV/エイズが原因で親を失ったり、親から捨てられた子どもたちを保護する施設にて(ロシア連邦)

©UNICEF/HQ04-0697/Giacomo Pirozzi

そのために、次のような行動が求められています。

- 「ミレニアム開発目標」の達成をめざす。
- 現在取り残されてしまっている子どもたちが、必須のサービスを受けられるようにする。
- 政府、国連、国際機関、NGO、一般の人びと、コミュニティなどがともに力を合わせて取り組む。

これらの目標を達成することによって、社会から取り残された、存在を認知されない“存在しない子どもたち”をも含め、すべての子どもにふさわしい世界を実現することが可能になります。

すべての子どもにふさわしい世界を実現することはとてもむずかしいことですが、きびしい状況にある子どもたちのために真剣に取り組んでいかなければならない課題です。

子どもたちは、私たちの力を必要としているのです。



ユニセフはスマトラ沖地震・津波の被害を受けた子どもたちに学用品を提供している。バンダアチエの学校にて。(インドネシア)

©UNICEF/HQ05-0317/Josh Estey

## 子どもにふさわしい世界をめざす

その原因のいずれもが複雑で、深刻な問題が背景にあり、改善の取り組みは困難な状況が続いています。

しかし、存在を認知されない子どもたちを守り、救うためには、できる限りの努力をしなければなりません。



メデリンの街の学校に集う子ども人権グループのメンバー。最上列まん中の男の子はグループを立ち上げたエディベルト君、16歳。(コロンビア)

©UNICEF/HQ00-0779/Donna Decesare

- \* ミレニアム開発目標とユニセフ活動の関連性は7ページ「ユニセフ60周年」でご紹介しています。
- \* 世界子供白書では、53ページに詳しい説明があります。

### 世界子供白書2006のご案内

『世界子供白書2006』日本語版をご希望の方には1部まで郵送料とともに無料でご提供します。  
お問い合わせは学校事業部へ。

TEL : 03-5789-2014  
FAX : 03-5789-2034  
E-mail : se-jcu@unicef.or.jp

